



信州の遺跡をたずねる 八幡の遺跡



社宮司遺跡



地鎮の土器



墨書ぼくしょの土器

七世紀から十二世紀
千曲市八幡字社宮司

平安時代の中ごろに役所の力が衰えて、この地域の有力者(豪族)の屋敷がつくられ、土地の神様を鎮める祭り(地鎮)が行われたようです。平安時代の終わりに、都で行われた阿弥陀佛を象徴する木造六角宝幢(高さ約一八〇センチ)が建てられました。

密教まぎやくの神かみ社しゃのある「郡」集落しゅうらく切りには、奈良時代に更級郡の役所(更級郡衙)があったと推定されています。社宮司遺跡はそれに関連するとみられ、文字の書かれた木札(木簡)や土器(墨書土器)がたくさん出土しています。平安時代の中ごろに役所の力が衰えて、この地域の有力者(豪族)の屋敷がつくられ、土地の神様を鎮める祭り(地鎮)が行われたようです。平安時代の終わりに、都で行われた阿弥陀佛を象徴する木造六角宝幢(高さ約一八〇センチ)が建てられました。

2000年	4000年	6000年	8000年	10000年	12000年	14000年	15000年
縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
<p>遺跡の年代を年代別に見ると、縄文時代から平安時代まで、約一万年にわたって、この地域に人が住んでいたことがわかります。また、この地域には、縄文時代から平安時代まで、多くの遺跡が点在しています。</p>							



木造六角宝幢(11〜12世紀)
長野県宝

詳しくは
こちらから↓



東條遺跡



七世紀から十六世紀
千曲市八幡字東條・八日市場

武水神社の南、更級川沿いには、筑摩郡から更級郡へ至る街道が古くから通っていたといわれています。「八日市場」辺りの整備記録では、多くの建物跡とともに、鎌倉時代から室町時代にかけてつくられた漆器や中国産の陶磁器、大小の硯などが発見されました。街道を行きかう人びとでにぎわう集落(町並)のようすが伝わってきます。蘇民将米符(長さ約二三センチ)の出土は、上田国分寺などに伝わる厄除けの民符が、室町時代前半までしかのぼることを物語っています。